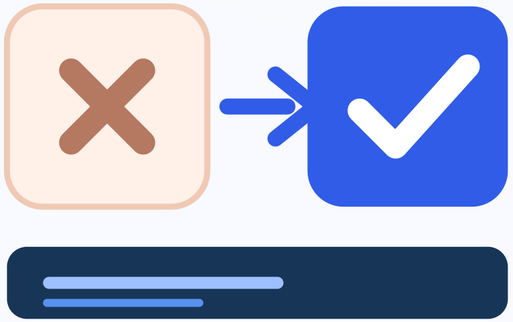
No.29 サービス紹介・全6ページ

3分でわかる

ADAPT
修正・再検証の支援



Securiy が修正案を作り、御社が適用する。その後「拒否される」と「壊れていない」の両方を確かめ、判断を記録する

Securiy

ADAPT は、何をして、何が残るか

持ち込むのは SIMULATE の検証記録でも、既存の診断の指摘でも構いません。Securiy が修正案を作り、御社のレビューを経て御社が適用したら、同じ手順でもう一度試して判断を記録します。修正差分と修正前後の4マスの例は No.06 早わかり P.06 にあります。

持ち込むもの（どちらか）

- **SIMULATE の検証記録**
  成立した経路と再現手順
- **既存の診断で見つかった指摘**
  再現できる形に整えるところから

あわせて伺うもの

- **御社の規約とレビュー体制**
  修正案はこれに合わせる

ADAPT の4工程

1. **修正案の作成**
   方針・差分・副作用
   コードは合意した方法で拝見
2. **レビュー反映**
   御社の指摘で作り直す
   適用は御社の開発が行う
3. **再検証**
   拒否と通常操作の両方
   同じ手順でもう一度試す
4. **判断の記録**
   誰が・いつ・何を根拠に
   リリース判断の根拠に

残るもの

- **修正案シート**
  方針・差分・影響・副作用
- **再検証結果**
  不正操作と通常操作の両方
- **判断の記録と残課題**
  修正候補つきで残す

やらないこと

- **本番やリポジトリへの直接の適用**
  適用は御社。差分と手順をお渡しする
- **「直った＝安全」の判定**
  同じ操作・経路・版で再検証した結果
- **合意した範囲外のコード変更**
  直す対象は指摘ごとに文書で決める

修正案は、御社が決めることを先に書く

レビューは採否の判断に集中

設計の選択（判定の置き場所など）は修正案シートの「確認」欄に書き、御社のレビューで決めます。

残るもの: 修正案シートと、判断の記録

左はレビューに出す修正案シート、右はリリース判断を残す記録。説明のための架空の例で、初回の記録はこの型で作ります。

修正案シート ／ ADP-001　　見本

対象	**顧客一覧の取得（検証記録 SIM-003）** 組織 ID の書き換えで他組織のデータが返る
方針	要求の組織 ID を信用せず、セッションの所属組織をサーバー側で照合する。不一致は拒否して記録する
差分	顧客一覧 API・CSV 出力・検索 API の3カ所を、共通の判定関数に寄せる
影響	自組織の取得は変わらない。サポート担当が他組織を閲覧する機能は、顧客の許可と期間を条件にした別の経路に分ける
副作用	連携キー経由の取得は組織 ID をキーに紐づける必要がある。未対応のまま適用すると連携が止まる可能性
確認	レビューで決めてほしいこと: 判定関数の置き場所（既存の認可層か新設か）、サポート経路の扱い、拒否時の応答（403 か 404 か）

コードは御社と合意した範囲・方法で拝見

判断の記録 ／ ADP-001　　v2 ／ レビュー済 ／ 見本

項目	内容
修正の版	v2.4.2（検証環境）。差分はレビュー後に御社が適用
不正操作	組織 ID を B に書き換え → 拒否　顧客一覧 API・CSV・検索 API の3経路で確認（画面は修正前から拒否）
通常操作	自組織の一覧・CSV・検索・連携キー経由の取得 → 通る　件数・並び順も修正前と同じ。連携キーは暫定で発行元の組織に限定
残課題	連携キーに組織 ID を紐づける設計（暫定対応で通常の取得が通ることは確認済み）。修正候補つきで記録
本番の版	御社で v2.4.2 との一致を確認してから適用（No.24 P.06）
判断	**リリース可（残課題を記録のうえ）**
判断者・日付	開発責任者（説明用）／報告会の当日
根拠	検証記録 SIM-003、修正案シート ADP-001、再検証の記録

取引先に「修正後に再検証したか」と聞かれたときの根拠になる形

修正案シートの読み方

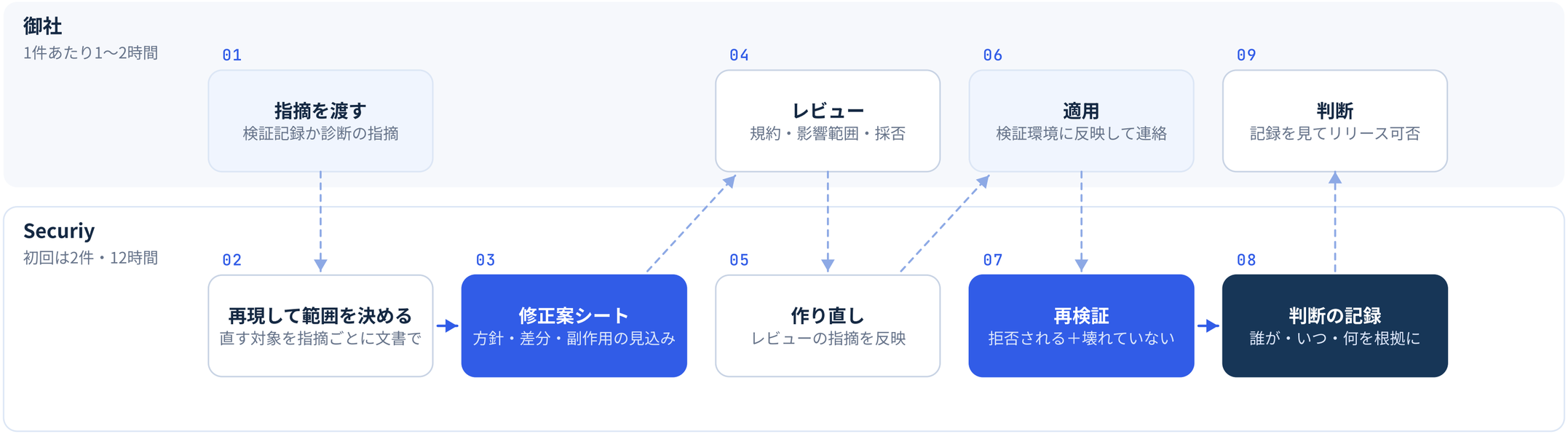
差分だけでなく「影響」と「副作用」を先に書きます。レビューで決めてほしいことを最後に置くので、御社のレビューは採否と置き場所の判断に集中できます。

判断の記録の読み方

不正操作と通常操作の両方の結果がそろって、はじめて「判断」の行が埋まります。残課題の欄は空欄にせず、なければ「なし（確かめた範囲: …）」と書きます。

1件あたりの分担: 作るのは Securiy、適用と判断は御社

修正案を作るのは Securiy、レビューと適用とリリース判断は御社です。1件につき御社にかかるのはレビューと適用の1〜2時間。
初回スコープでは修正案と再検証を2件・12時間まで含みます。



レビューで差し戻しがあれば 04 → 05 を繰り返します。初回の枠に収まらないものは、修正候補つきの残課題として記録し、御社で直すか外部に出すかを判断できる形でお渡しします。

本番やリポジトリへの適用は御社の開発が行い、Securiy は差分と手順をお渡しします。

ADAPT について、先にお答えしておくこと

検討の段階で確かめておきたいことのうち、ADAPT に固有のものを先に書きます。費用・実績・AI へのデータ送信の全般は No.06 早わかり P.08 にあります。

修正は誰が適用しますか。

御社の開発です。Securiy は本番にもリポジトリにも直接コミットせず、差分と適用の手順をお渡しします。適用後に連絡をいただいてから再検証に入ります。

ソースコードを渡す必要がありますか。外部の AI に送りますか。

修正案を作るには対象箇所のコードが必要です。読み取り専用の権限、対象ファイルの抜粋の共有など、合意した範囲と方法で拝見します。拝見したコードを外部の AI サービスに送るかどうか、送る場合の学習利用の有無は、範囲の合意書に明記します。ご希望があれば秘密保持契約を結びます。

修正案を作った側が再検証するのは、自己採点になりませんか。

再検証の手順と合格の条件は、修正案を作る前に、検証記録の再現手順と修正案シートの「確認」欄で決め、御社のレビューで合意します。結果は手順と応答の記録つきで残すので、御社や取引先が同じ手順で再現できます。リリースしてよいかを決めるのは御社です。

修正案が自社の規約や設計に合わなかったら。

レビューで差し戻してください。方針を変えて作り直します。判定関数の置き場所のような設計の選択は、修正案シートの「確認」欄に先に書いて御社に決めていただきます。

見つかったものが3件以上あったら。再検証で新しく見つかったら。

報告会の前に、リスク一覧の重大度の順に御社と2件を選びます。残りと、再検証で新しく見つかったものは、修正候補つきの残課題として記録し、御社で直すか外部に出すかを判断できる形でお渡しします。

既存の診断の指摘だけを持ち込めますか。

できます。指摘を再現できる形（誰として・何を指定して・どの経路で）に整えるところから始め、再現できたものに修正案を作ります。再現できない指摘はその旨を記録します。指摘だけを持ち込むときの組み方と費用は、初回相談でご説明します。

直して終わりにせず、
壊れていないまで確かめる。

指摘を直し、元の再現手順で画面と API から拒否されることと、自組織の操作が通ることを確かめるところまでは自社でできます（No.09 P.09）。外に出す価値があるのは、元の指摘になかった条件と経路（承認内容の書き換え・連携キー・AI 機能）でも同じ条件が拒否されるかを広く試し、試さなかったものも未検証範囲として書いた、取引先に出せる判断の記録にするところです。初回のご相談は30分・無料です。

お申し込み・お問い合わせ　**securiy-preview.pages.dev**　のフォームから
Tempura technologies株式会社

※ すべての攻撃の網羅や「安全」の総合判定は保証しません。金融の規制適合審査、決済基盤全体の監査、カード不正判定は対象外です。

無料相談

30分無料相談

すでに見つかっている指摘があれば、再現できる形に整えるところから一緒に始めます。本番の認証情報や顧客データは不要です。

相談を申し込む →

共同検証プログラムとは

検証テーマを一緒に作る企業に、初回スコープで提供する枠組み

1アプリ・1検証環境・2操作、準備完了後10営業日・合計40時間（修正案と再検証は2件・12時間まで）。費用は着手前に提示します。

次に読む

No.28 SIMULATE リスクの検証
No.24 一度きりの診断から継続検証へ

見つけるまでの流れと、リリースごとに再検証する回し方はこちら。